

生物と水のかかわり

曾爾村立曾爾中学校 三年

丸瀬 秀征

「うわあ。こんなにきれいな見たことがない。」
夜中、用事から家に帰る途中、川の近くに降りてみた。すると、今まで見たことのない光景が広がっていた。それはたくさんが蛍が飛び交っている様子だった。一、二匹が小さな光を放して飛んでいるのはよく見かけるがこんなに多くが群れをなして飛んでいる様子は初めてだった。なぜ御杖にはこんなに多くの蛍が飛んでいるのだろうか。そう思って原因を考えてみると、川の水のきれいさと蛍が卵を産んだり、生活していくための植物が水辺に生えていることが挙げられると考えた。またこの素晴らしい光景をこれから先も見たいとも思った。こうした体験は自然に住んでいる生物やテレビなどでよく見かける環境問題について考える小さなきっかけになったかも

しれない。
あの夏の夜から少し日がたち、二年生の地理の授業で自然保護のさまざまな取り組みというところを勉強していた。すると、先生が「みんながよく通る青蓮寺の川は昔、川で泳げるほど水がきれいで、天然の鮎ともいってん。けど今は、青蓮寺ダムが建設されて鮎をつると、鮎が臭くて食べられへんらしいよ」と僕たちに教えてくれた。え、あの川ってそんなにきれいやつたんと最初、半信半疑で聞いていた。よく近くを通る青蓮寺の川はとも濁っていて、きれいな川とは言えなかった。そこで、あまりはつきりと先生の話から天然の鮎が住んでいたとは想像できなかった。またそこに住んでいた魚などの生き物がダム建設によってだんだん減少していったことが悲しく思えた。

話を聞いて、人の暮らしの今の状況を見ると、開発や産業の発達によって僕たちの暮らしはよりいっそう豊かになっていったことがわかる。しかしそういった反面、廃棄物が川に捨てられたり、生活や工場から出る排水などによって、川の水が汚染され、川に住む生き物がどんどん減っていく。こうしたことから、僕たち人間が使用した水は川や湖に住む生物たちに大きな影響を及ぼしているのだ。そう思うと、人の勝手な行動によって、多くの川や湖を汚し、生物に迷惑をかけているようにしか見えない。

今の人たちは少しでも豊かで安全な生活を過ごしたいと開発したり、技術を進歩させたりしている。確かに開発などで産業が発達し、生活が豊かになって多くの人がそれによって救われることはとてもうれしい。しかし、そういう流れの中で多くの水が使われ、水質汚濁などで湖や川に住む生物の環境がどんどん悪化されていることを忘れてはいけない。僕たち一人一人ができることはたくさんある。例えば環境にやさしい洗剤を使ったり、物を買うとき化学肥料を使用していない農業

商品を買ったりすることが挙げられる。僕は多くの人が生物と水の結びつきが強いことを理解し、生物が住める環境に保たれてほしいと思った。